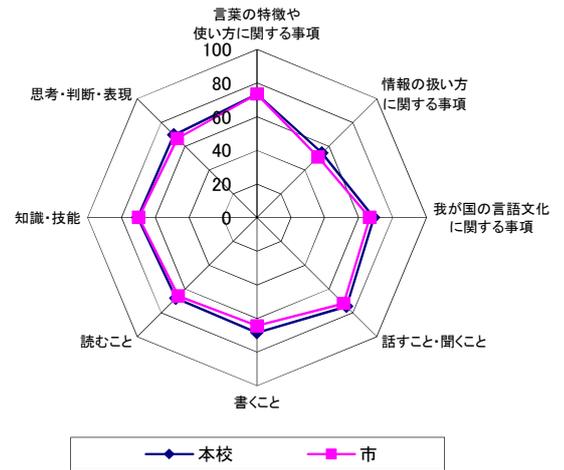


# 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.3	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	54.4	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	68.9	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	74.8	72.3	73.7
	書くこと	68.4	64.3	66.6
	読むこと	67.8	65.8	64.9
観点別	知識・技能	70.3	69.8	70.8
	思考・判断・表現	69.4	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

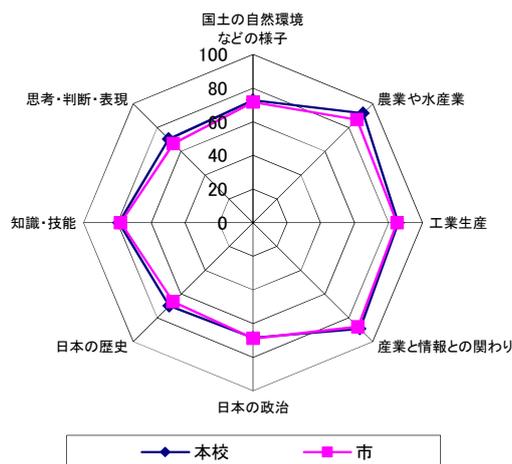
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○この領域の平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○漢字の読み書きについては、特に第6学年に配当されている漢字がよく身に付いている。3問中2問の正答率が96.1%であった。 ●一方、第5学年に配当されている漢字の正答率は3問中2問は市の平均を下回っている。	・朝の学習や授業でのミニテストを行う。また、前学年に扱った漢字や語句についても、繰り返し指導を行うことで、知識の定着を図る。 ・国語での学びにこだわらず、各教科の学習に出てくる語句なども授業内で取り上げ、熟語について意識をもてるようにする。
情報の扱い方に関する事項	○この領域の平均正答率は、市の平均を3.4ポイント上回っている。 ●説明文の内容から読み取ったことを記述で答える設問では、市の平均を1.1ポイント上回っているが、正答率は52.4%であり課題である。	・説明文や資料の的確な読み取りを学年の発達段階に応じて丁寧に行っていくとともに、読み取ったことを簡潔にまとめる活動を繰り返していく。
我が国の言語文化に関する事項	○この領域の平均正答率は、市の平均を2.4ポイント上回っている。 ●和語・漢語・外来語に関する問題の正答率は、市の平均より2.4ポイント高かったが、理解が不十分である。	・引き続き語句の由来に関する単元では、より丁寧な指導を行っていく。和語・漢語・外来語にまつわるワークシートやICTを活用することで、知識の定着を図る。
話すこと・聞くこと	○この領域の平均正答率は、市の平均を2.5ポイント上回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができている。	・これまでに行ってきた指導を継続していく。 ・国語や学級活動を中心に話し合い活動を行い、学んだことを活用できるようにする。
書くこと	○この領域の平均正答率は、市の平均を4.1ポイント上回っている。 ○自分の意見とその理由を明確にして書く問題では、正答率は89.3%であり、全国や市の平均を上回っている。 ●予想される反論とそれに対する意見を書く問題の正答率は50.5%であり、市の平均を3.4%上回っているが課題がある。	・教科を問わず、自分の考えを書く活動を設け、書き方の指導を行う。その際、条件を踏まえること、構成を考えて書くことなどを丁寧に指導していく。また、報告文を書く際には、目的や意図に応じた簡潔な書き方を意識させるとともに、友達同士で書いたものを見直すなどしてよりよい表現になるよう考えさせる。
読むこと	○この領域の平均正答率は、市の平均を2.0ポイント上回っている。 ○物語の読み取りに関する問題は、正答率が7割～9割であり、描写をもとに内容や心情を捉えることができていた。 ●説明文の読み取りに関する問題は、正答率が3割～6割であり、情報と情報の関係を理解することに課題がある。	・説明文の学習では、指示語の内容や中心文・中心語句などを的確に捉える学習を積み重ねていき、情報と情報の関係を読み取る学習につなげていく。

# 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	72.8	71.6	69.6
	農業や水産業	91.9	86.7	83.7
	工業生産	85.8	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	89.3	87.7	77.4
	日本の政治	68.4	68.9	71.7
	日本の歴史	69.9	66.7	66.3
観点別	知識・技能	79.2	78.0	76.7
	思考・判断・表現	70.4	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

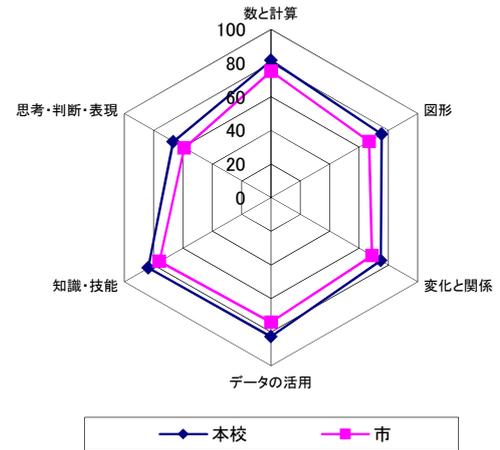
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○この領域の正答率は、市の平均を1.2ポイント上回っている。 ●国内の林業が抱える課題についての設問では、市の平均を3.6ポイント上回っているものの正答率は38.8%と課題が見られる。	・国名や海洋などの名称や位置関係、国内の気候の特徴など、地理的な基礎知識が定着できるように、今後も、地図帳や地球儀、1人1台端末を生かして調べる活動を取り入れていく。
農業や水産業	○この領域の正答率は、市の平均を5.2ポイント上回っている。 ○すべての設問において、正答率が90%を超え、特に米の生産が盛んな地域についての理解をもとに、資料を判断する設問では、95.1%と高い正答率である。	・学んだことを自分の言葉でまとめたり、全体で共有したりすることで、さらに日本の農業や水産業の仕組みについて理解が深まるように指導していく。
工業生産	○この領域の正答率は、市の平均を0.8ポイント上回っている。 ○工業生産の製造過程に関する設問は、市の平均を3.9ポイント上回り、正答率は96.1%とよく理解できている。 ●日本の工業の特色について、資料を基に表現する設問においては、市の平均を4.5ポイント下回っている。	・日本と海外の輸出や輸入の関係など、教科書や資料集のグラフの読み取りに関する活動を、今後も丁寧におこなっていく。
産業と情報との関わり	○この領域の正答率は、市の平均を1.6ポイント上回っている。 ○特に、メディアの特徴についての設問では、98.1%と非常に高い正答率である。	・日常生活と情報との関係性を、今後も教科書や資料集、1人1台端末などを活用しながら、適切にとらえさせる指導を進めていく。
日本の政治	●この領域の正答率は、市の平均を0.5ポイント下回っている。 ●特に内閣の働きについての設問では、正答率が40.8%と課題が見られる。	・学習活動の中で、資料から読み取ったことをお互いに交流する場面を設け、資料の情報を正確に使う説明する活動を増やすなど、今後も積極的に資料に触れていけるよう指導を進めていく。
日本の歴史	○この領域の正答率は、市の平均を3.2ポイント上回っている。 ○特に、源平の戦いに関する設問では、市の平均を15.2ポイント上回っている。 ●大王についての理解を問われる設問では、市の平均を15.5ポイント下回り、正答率も35.0パーセントと課題が見られる。	・各時代の基礎的知識を復習するだけでなく、歴史的事象に対して考えたことを自分の言葉で記述したり、ノートにキーワードをまとめたりする機会を増やしていくことで、歴史に関する知識を結び付けて理解し、活用できる力も伸ばしていきたい。

# 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	81.6	75.1	75.8
	図形	75.4	66.8	68.3
	変化と関係	74.8	68.8	65.0
	データの活用	82.7	74.1	63.6
観点別	知識・技能	83.6	76.1	75.8
	思考・判断・表現	66.6	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

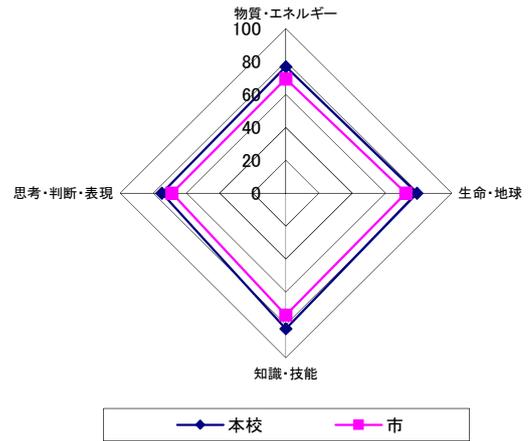
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○この領域の正答率は、市の平均を6.5ポイント上回っており、よく理解できている。特に分数の足し算の問題では、市の平均を15.7ポイント上回った。 ●約分のある分数のわり算については、市の平均を3.0ポイント下回った。	・計算の意味や、やり方への理解が深まるような指導と、知識や技能を身に付けるための反復練習に力を入れていく。
図形	○この領域の正答率は、市の平均を8.6ポイント上回っていた。特に角柱の体積を求める問題では、市の平均を17.3ポイント上回った。 ●高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積を求める問題では、市の平均と同様、他の問題より正答率が低く、課題がある。	・図形領域の学習においては、作図や操作などの活動を多く取り入れ、図形をイメージできるようにしていくなど、理解を深めることができるような指導を続けていく。
変化と関係	○この領域の正答率は、市の平均を6.0ポイント上回っていた。特に、速さと道のりから、時間を求める問題では、市の平均を8.0ポイント上回った。 ●基準量と比較量についての知識の定着に課題があり、割合を求める問題が、他の問題に比べて正答率が低かった。	・「単位量あたりの大きさ」と「速さ」の問題は、引き続き数直線や図などを用いて考え、自分で説明する活動を増やしながらか定着を図っていく。その際、問題の中から「基準量」と「比較量」、「道のり」「速さ」「時間」を正確に捉えられるよう指導を行う。 ・「割合」の問題は、基準量と比較量、割合の関係性から復習し、基礎をしっかりと身に付けさせていく。
データの活用	○この領域の正答率は、市の平均を8.6ポイント上回っており、よく理解できている。 ●記述式の問題では、市の平均と同様、他の問題より正答率が低かった。	・グラフやデータから正しいものを選ぶことや、必要な情報を読み取ることはできているが、それをどのように活用していくか、またそれらは何の根拠になるのかなどを文章で説明できるように繰り返し指導していく。

# 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	76.9	69.5	65.2
	生命・地球	79.0	72.3	70.1
観点別	知識・技能	82.4	74.0	70.7
	思考・判断・表現	74.8	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○この領域の平均正答率は、市の平均を7.4ポイント上回っている。</p> <p>○「物のとけ方」の実験における条件制御の誤りを指摘し、説明する問題の正答率は69.9%であり、市の平均を17.0ポイント上回っている。</p> <p>●「物のとけ方」の水にとけた食塩とミョウバンを取り出す方法について指摘する問題の正答率は38.8%で、市の平均を4.1ポイント下回っている。</p>	<p>・学習内容を、生活の場面で生かしたり、当てはまることを学習の中に盛り込みながら授業を進めたりすることで、科学的な事象を身近に捉えることができ、知識の定着が図れたと考えられる。今後も重点的に指導を継続していく。</p> <p>・ほとんどの問題で市の平均を上回っているので、今後もさらに授業を工夫していく。</p>
生命・地球	<p>○この領域の平均正答率は、市の平均を6.7ポイント上回っている。</p> <p>○「流れる水のはたらき」の浸食についての理解を問われる問題の正答率は90.3%であり、市の平均を19.6ポイント上回っている。</p> <p>○「流れる水のはたらき」の山の雨量と下流の川の水位の関係をグラフから読み取り、指摘する問題の正答率は79.6%であり、市の平均を12.1ポイント上回っている。</p>	<p>・生命や地球など、想像が難しい分野に関しては、映像資料を活用し、丁寧に授業を行うことで、知識の定着を図っていく。</p> <p>・課題解決のための方策を考える話し合いを継続してきたことで、目的や条件を考える力が高まったと考えられる。今後も意欲的に活動ができるよう、発問等を工夫していきたい。</p>

## 宇都宮市立豊郷中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「書く」「話す」活動を意図的に取り入れ、自分の考えを表現する力の向上を図る。	書くことへの抵抗を減らすため、学年の発達段階に応じて、日記を書く活動や、学習の振り返りの際に自分の学びを文章化できるような取組を充実させてきた。また、自分の考えを他に伝えたり、話し合い活動の経験を意図的に実施してきた。	国語の「書くこと」の領域に関しては、どの設問においても市の平均を上回った。他の3教科においても記述形式の設問は市の平均を上回った。社会と算数については、短答形式の問題につまづきがあった。
学び合う授業づくりを行う。	児童一人一人が思考・判断・表現する活動を充実させるとともに、学習のねらいに応じて、ペア学習やグループ学習を効果的に位置付ける。	教科ごとに見ると、どの教科においても「思考・判断・表現」の観点については市の平均を上回っている。しかし、設問ごとに見ると、基礎的な問題において市の平均を下回っている問題がある。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎学力の定着のため、個に応じた指導を充実させるとともに、児童が主体的に学習に取り組めるような学習課題の工夫を行う。
- ・「書く」「話す」力をさらに高めるために、鉛筆を用いて書くことと、1人1台端末を用いる学習を効果的に取り入れ、書くことへの抵抗を減らしながら指導を行う。
- ・字数や段落など条件に合った書き方ができるよう、学年の発達段階に合わせて指導を工夫していく。
- ・自分の考えを根拠や理由を明らかにして分かりやすく表現し、順序立てて端的に伝える力の定着に力を入れる。
- ・個の考えを表現する活動の時間を十分に確保する。（「じっくり」の活動を充実させる。）
- ・自分の考えを発信する活動をどの教科でも取り入れ、自分の役割を明確にし、話し合い活動を充実させる。